

全日本選抜中学硬式野球大会 天候不順により決勝を行わず交流戦5試合実施、出場全23チームが平等に2試合戦うことを優先



日本旅行カップ第6回全日本選抜中学硬式野球大会が3月26、28日の3日間、沖縄のコザしんぎんスタジアムほかで開催された。天候不順により試合中止が相次いだことから、日本ポニーベースボール協会は大会3日目に決勝を行わず、交流戦5試合を実施。優勝、準優勝を決めるより、出場全23チームが平等に2試合戦うことを優先させた。大会では前回大会優勝チームに快勝した市原ポニー、九州1位のチームに競り勝った千葉ジャガーズなど、関東のチームの活躍が目立った。なお最終日には、同協会理事である館林慶友病院・古島弘三医師による肩肘検診も行われた。

長谷部、九州王者完封まであと1人

千葉ジャガーズ

千葉ジャガーズは背番号10の長谷部圭祐(3年)が昨秋の九州王者・ポニー久留米ポニーズを相手



市原は2試合とも快勝。初めの遠征で結束力が上がった

安達主将が投打活躍、前回覇者撃破  
市原ポニーは初戦を10安打5得点の猛攻で、前回大会優勝の筑後リパイズに快勝。先発した主将の安達琉偉(3年)が3回を無安打無失点。打つても2安打1打点と投打で引っ張った。安達は「ピッチングでは球数を少なく、なるべくストライクを入れるよう心がけた」と振り返った。2回戦の館林慶友ポニー戦でも打線好調で12-2のワールド勝ちを収めた。現在の3年生は、コロナ禍のため、これまで合宿や宿泊を伴う遠征ができなかった。清水佑介監

羽田アンビシヤス

羽田アンビシヤスは2戦連続1点差を制した。関東のライバル・墨田ポニーとの2回戦、4回無死満塁から武島信幸監督(55)はケガから復帰したばかりの住谷祐輔(3年)を代打に送ると、左中間に走者一掃の3点三塁打を放った。武島監督は「住谷はじめて練習熱心な男。ケガから復帰したばかりで、大事な場面よく打ってくれた」と喜んだ。住谷は「打ったのは低め、外寄りの真つすぐ。打撃には自信あります」と言葉に力を込

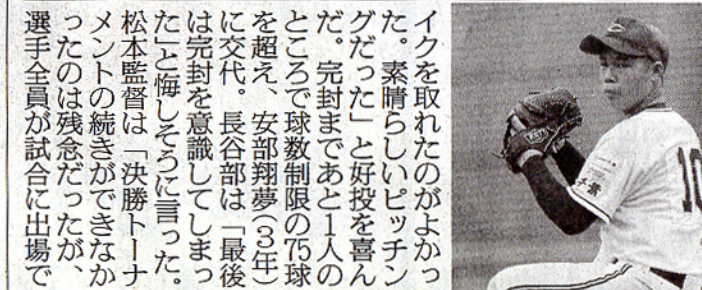


羽田の住谷祐輔は、墨田戦の4回に走者一掃の左中間三塁打を放つ

再試合で坂本5回1失点V呼び込む

墨田ポニー

墨田ポニーは糸島イーグルスとの初戦は3回途中でグラウンドコンディション不良のため、サスペンデッドゲームに。翌日、試合再開からマウンドに上がった坂本佑弥(3年)が5回1失点で勝利を呼び込んだ。坂本は「今日は直球とスライダで三振を取れた」と



千葉の背番号10長谷部圭祐は久留米ポニーズ戦で好投

市原は初戦で前回優勝の筑後リパイズに快勝。先発した安達琉偉が投打に活躍  
市原は初戦で前回優勝の筑後リパイズに快勝。先発した安達琉偉が投打に活躍。監督(24)は「彼らにとつては、今回の選抜が初めての泊まりでの遠征。コミュニケーションがとれるようになり、結束力、チーム力が上がったように感じる」と成長を喜んだ。



羽田は2試合でベンチ入りした全ての選手が出場した

笑顔。杉木潤二監督(71)も「今日は期待通りのピッチングをしてくれた」と笑顔を見せた。羽田アンビシヤスとの2回戦は5-6と接戦の末に敗れたが、果敢に次の塁を狙う積極的な走塁を披露した。杉木監督は「走塁に関しては練習の成果を発揮することができた」と大会で手にした収穫を話した。

き、機動力も存分に発揮することができた」と選手たちの頑張りを評価した。



天候不順のなか、連勝した千葉・松本監督は選手らの頑張りを評価した

夏に向けチーム仕上げたい  
清瀬ポニーズ八景千秋監督(63) 選抜は夏の大会へ向けてのステップアップの意味がある。沖縄の選手たちの身体能力の高さを、うちの選手に見せたかったというのも目的の1つ。これから夏に向けてチームを仕上げていきたい。

選手たちのいい笑顔が収穫  
将門ポニー瀬田利浩監督(50) 予定が大幅に変わったが、全チームが2試合できるように調整してくださった協会のみなさんに感謝している。選手たちがいい笑顔で野球をやってくれた。それが一番

チーム、いい仲間になったと思う。  
相手の隙のなさ、勉強になった  
小平ポニーズ齋藤泰勝総監督(73) 佐賀ピクトリーとは、昨夏の全日本選手権に続いての対戦で、縁を感じる。今回は安打数ではうちの方が上回ったが、2-5で敗れた。足を絡めた隙のない野球など、勉強させてもらった。これからま

関東勢その他監督コメント  
選手たち気持ち入ったプレー  
館林慶友ポニー西村向陽HC(21) 全国大会の緊張感の中、選手たちが気持ちの入ったプレーを見せてくれた。特に八重山ポニーズとの試合では序盤に点差をつけられながらも諦めず自分たちのベストを出して逆転勝利を手にした。いい